

オランダの老舗ショップに集合した
激改や激レア4MINI多数キャッチ!



THE
4MINI
WORLD
SURPRISING
DISCOVERY

vol.14



VG Den Bosch
Netherlands

▼自分のバイクじゃないのに、いきなり撮影に乱入してきたアリアナちゃん。意味不明ながらも「写真撮っていいわよ」みたいな感じだったのでシャッター押しときました。ちなみにオーナーのコールンは下写真の真の人です。

オランダは 多彩な4MINIで 楽しさ満喫中!

10月号でPART1をお伝えしたオランダの4MINIショップ、DaxdodoのPART2です。前回もご紹介しましたが、絶滅したdodo「ドードー」という鳥の名前をSHOP名に使っているのは、Daxも生産中止になっていながらも、絶滅させずに楽しみたいというオーナーのマティアスさんの願いが込められている。ではそんなオランダの4MINIショップに集まってくださった4MINIファンをご紹介しましょ〜!

- SHOP:Daxdodo 4-Stroke Parts
- Photo&Report:Tsuuyoshi Chiwa
- Translation:Keizo Kagaya (KA-HA-Trading GmbH)
- Special Thanks:C.F.POSH(Tokyo & Osaka)



オランダの人気4MINIショップ
Daxdodo 4-Stroke Parts



空港のあるアムステルダムからクルマで1時間くらいに位置するDaxdodo。お客さんはフランス、デンマーク、イタリア、スペインなどヨーロッパ全土におよび、20~65歳までと年齢層も幅広い。年に10回くらいはツーリングも主催しており、走り系に強いカスタマイズも得意としている。ちなみにDaxdodoという名称だが、お客さんはモンキーとDaxが半々くらいという。

Daxdodo 4-Stroke Parts
Gerstakker 2 5236 VG Den Bosch Netherlands
TEL:31621872266

Machine
OV24 (OVER RACING)
Owner
Jeroen Van Der Wolk
コールンファン・デア・ウォルク (34歳)

▲OV24フレームにはビッグシーター製アルミタンクをチョイス。前後ホイールはファルコン製12インチを履き、フロントの3JホイールにはFMR(100/65-12)を、リアの3.5Jホイールにはミシュラン製パイロトススポーツ(130/70-12)を装着。Take製フロントフェンダーや18cmロングとなるOVERレーシング製スイングアームもジャストフィット。



▶OVERレーシング製のOVフレームを愛しているというコールン。この日は搭載が間に合わなかったが、SP武川製スカット106ccやOVERレーシング製のGPパフォーマンスマンプラをすでに購入済み。

▲ヨーロッパでも高い人気を誇るGクラフト製のリザーブタンクレスキット。現地では丸型より写真の角型のほうが人気が高いという。



▲OVERレーシング製のOV24フレームを誇らしげに自慢するコールン。日本製の高いクオリティは世界に喜びを届けているんです。

「OVフレーム
愛してます」





▼前後にゲイルスピード製鍛造アルミホイールを装着し、エンジンはナイス110をドイツのTJR製ヘッドで146cc化。シートカウルは自作とし、日本製パーツとヨーロッパ製パーツをうまく組み合わせた仕上がりとなっている。じつは今、Gクラ製のフレームを発売しているということで、「完成したらまた撮影してくれよな!」ってことでした。

**日本製パーツと
ユーロ製パーツの
ミックスカスタム**

▲グリーンが表示が鮮やかでお気に入りのSP武川製スピードメーター&タコメーターを装着。ハンドルはレンサル製で幅の広いユタリとしたポジションを獲得。

**Machine
Monkey R(Honda)
Owner
Jhon Van Muijden
ジョン・ファン・ムイデン(39歳)**



クラッチカバーに注目!

▼ドイツのHOT SHOT MONKEYS製クラッチカバーを装着。ナイス110用という点も、ヨーロッパならではのオリジナリティーが魅力的なアイテムです。



◀ホイールはゲイルスピードで12インチ化。ブレーキング製ディスクローターにはGクラフト製キャリアバーサポートを使用し、プレンボ製4ポットキャリアバーを装着。

◀OVERレーシング製マフラーやGクラフト製スイングアームがレーシーなリヤ周りを演出。単車用となる大きな黄色のナンバープレートもヨーロッパほくてクール。左上のNLというのはNetherlands(オランダ)の意味です。



**Daxdodoの
社長さんです**

**Machine
Monkey(Honda)
Owner
Matthijs Fokkens
マティアス・フォッケンス(42歳)**

◀フォッケンスさんのモンキーはSP武川製+Rヘッドで175cc仕様。ドイツナ製ハンドルやビッグシーダー製アルミタンク、OVERレーシング製マフラーをチョイス。ライトステーやステム周辺などもGクラ製となっており、日本製パーツがふんだんに使用されるメニューとなっています。



▶TAKEGAWAと刻印の入ったフロントフォークには、Gクラフト製キャリアバーサポートでプレンボ製キャリアバーが装着され、ホイールもGクラフト製スビットファイヤー。

▲Gクラフト製10cmロングスイングアームにはブレーキング製ディスクローターやプレンボ製キャリアバーが採用され、フロント同様スビットファイヤーホイールが採用されています。

**Machine
Monkey R(Honda)
Owner
Stefan Meeuwisse
ステファン・メーウッセ(22歳)**

**オールブラックが
シブいでしょ!**

◀詳細不明のライトカウルや全体のブラックがシブいモンキーR。エンジンはSP武川製の旧スーパーヘッドで88ccとなっている。



▼OVERレーシング製マフラーやファイダグディ製スイングアーム、キタコ製前後ホイールでコンパクトかつレーシーなフォルムに仕上がっている。



**Machine
SS50(Honda)
Owner
Peter Van Hamond
ペーター・ファン・ハーモンド(65歳)**

まだまだ若いもんには負けんよ!

▼65歳でも自走でやってきてポーズをきめるペーターさん。スイングアームやマフラー、シートやハンドル、フロントフェンダーまで自作というから驚きです。自慢のポイントをお聞きしたら15分くらい話が続けられました。楽しそうですね~!

**65歳でも
4MINIを満喫してます!**



▲SP武川製のツインスパークヘッドを搭載するコンプリートエンジンは123cc。同じくSP武川製クラッチやドイツナ製オイルクーラー、PE28φキャブなど。

▶メーターパネルは自慢の自作ワンオフ。キタコ製のデジタル温度メーターも「見やすくいい」とお気に入り。

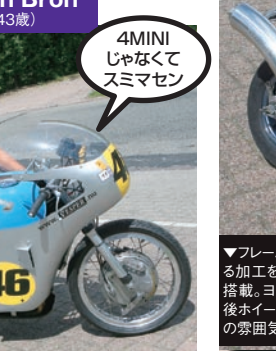
◀ドイツで毎年開催されるViseミーティングの参加者ステッカーがヘッドライトに誇らしげに貼られている。ドイツまではクルマで2時間程度と近いので、毎年通っているという。写真のステッカーは2006年の13回大会と2007年の14回大会のもの。



**Machine
Gorilla (Honda)
Owner
Christian Hermelink
クリス・ヘルムリンク(29歳)**

鈴鹿の4バラも知ってるよ!

**Wave125のエンジンを
スワップです**



4MINIじゃなくてスミマセン



▼フレームを加工し、エンジンの後ろ側削る加工を施してウェーブ125のエンジンを搭載。ヨシムラ製マフラーやSP武川製前後ホイール、ドイツナ製リヤショックでゴリラの雰囲気を残したままとりの良さが自慢。



▲左ページのテッドさんがペイントしたというタンク。ヨーロッパと言えどもホンダのウィングマークは外せないアイテムなのです。

前号に引き続き、オランダの4MINIショップ、Daxdodo(ダックスドードー)に集まってくれた4MINIファンをご紹介します。二つオランダはドイツやベルギーなどの4MINIショップが多数存在する国と隣接しているため、それらの隣国で開催される4MINIイベントなどにも参加しやすく(地続きで高速道路も無料なんです)、カスタムの流行もいち早く入ってくる。とはいえ、やはり4MINIカスタムの主流は日本製の高品質なパーツを使用することで、ハイエンドで高額のアイテムも多数見かけるほか、スイングアームやホイールマフラーなどは日本製が定番と言えるほどの人気となっている。現地にキタコやSP武川、Gクラフトや最近ではヨシムラの代理店も出ており、日本製パーツの入手が容易で、商品情報やアフターサービスなども充実しているという。また、ドイツのHOTSHOT MONKEYSのように、自社で商品を開発、販売しているSHOPも登場し、ヨーロッパならではのアイデアや品質で4MINI業界が賑わっているという側面もある。

今回の撮影にも感じられたのが、4MINIショップは年齢層や性別を問わない雰囲気やヨーロッパにはあり、かなりの二重配から若い女性まで、幅広く4MINIを楽しんでいることが印象的で、バリバリ走りを楽しむ人やヨシムラと手作りカスタムを進めている人、ワンオフパーツを多用して丸ごと一台ワンオフ車両を作ろうと画策している人など、ほんとに多種多様な楽しみ方がオランダの特徴かもしれない。

▶ファンネルにはタービンみたいなフィンが付いていて、エンジンをかけるどクルクル回ります。どうい効果があるかはわかりませんが、少なくともアイデアはバツグンです。



▼各地のミーティングに必ず登場し、いつも超陽気で気さくなテッドさん。自作ワンオフ加工でフレームを30mmストレッチしたモンキーの30周年記念モデル。前後にドイツナ製12インチアルミホイールを装着し、フロントタイヤはケンダ製(100/60-12)を装着です。

**Machine
Monkey (Honda)
Owner
Ted Sinnige
テッド・シンネグ(60歳)**

**お馴染み
一番陽気な
テッドさんです**



▶OVERレーシング製マフラーやSP武川製160mmロングスイングアーム、それに台湾でも人気のブリヂストン製BT30(120/70-12)を装着。

**Machine
Dax(Honda)
Owner
Jan Van Schaik
ヤン・ファン・シャイク(43歳)**



▼モトーンを仕上げたダックス。SP武川製マニホールド、シートやマフラーもライトカスタム。ゆるーい感じで4MINIを楽しむ人もけっこうたくさんいるのは日本もヨーロッパも同じです。

**ゆるーく楽しむ
4MINIは世界共通**

現役レーシングマシンです

▲1971年式のレーシングマシン。5年前に購入して、アッセンやスバランコルシヤン、ホッケンハイムなどを走っているそうです。4MINIじゃないけど、1人だけ仲間外れなのはかわいそうだったので掲載です。



**Machine
CB500 (Honda)
Owner
Gerard Van Den Bron
ゲラード・ファン・デン・ブロン(43歳)**